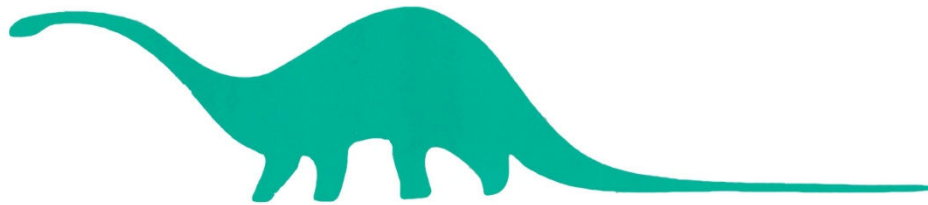


# C.L. information

～Vol.22(3月号)2013～



今月号の特集：ダニが媒介する感染症  
レジオネラ症について

株式会社コントロールラボ  
<http://controllabo.co.jp>

# ダニが媒介する感染症

## マダニ新感染症（重症熱性血小板減少症候群 SFTS）

今年に入ってから日本全国を騒がせている“重症熱性血小板減少症候群”（severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS）は、マダニが媒介するウイルス性の新感染症です。SFTS はフタトゲチマダニ等のマダニ類に咬まれたり、患者の血液や体液に接触することによって、SFTS ウイルスの感染が成立します。SFTS はごく最近の 2011 年に中国で初めて発症例が確認され、国内では今年 2 月末までに 5 人の死亡例が報告されており、致死率は 10%を超えると推定されています。

現在のところ、有効なワクチンや治療法は無いため、対策としてはマダニに咬まれないようにすることが重要です。野山や草むら、藪など、マダニの生息場所に入る場合には、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を極力少なくしましょう。

病名	感染源	潜伏期間	症状
SFTS	マダニ類 患者の血液・体液	6 日～14 日	発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)、頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、痙攣、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳、咽頭痛)、出血症状(紫斑、下血)等

因みに、マダニ自体は日本国内に広く分布しており、遺伝配列の調査結果からウイルス自体も以前から国内に存在していたと考えられています。近年、初めて患者が診断されましたが、現在、厚生労働省を始めとした実態調査が進められています。

## その他のダニによる感染症

ダニが媒介する感染症は SFTS 以外にも複数存在していますので、この項ではそれらの感染症に関して記載します。いずれの病気に関しても、重症化すると死亡する可能性もあるため、異常が疑われたら医療機関で診察を受け、適切な治療を施す必要があります。

病名	特徴
ツツガムシ病	ツツガムシ病はダニの一種であるツツガムシが媒介する病気です。 <i>Orientia tsutsugamushi</i> と呼ばれるリケッチアが病原菌となっており、この菌を持つツツガムシの幼生が、体に吸着する事で体内へと病原体が移行し発症します。発熱・発疹・ダニによる刺し口が主要な症状として知られています。
ライム病	ライム病はマダニが媒介する病気で、ボレリアと呼ばれる細菌の一種が病原体として知られています。病原菌を持つマダニに吸血されることで、菌が体内に移行し発症します。初期症状としては刺咬された部位の紅斑やインフルエンザ様症状が発生し、病原体が全身にまわると皮膚症状や関節炎等、多種多様な症状が見られます。
日本紅斑熱	日本紅斑熱はマダニが媒介する病気で、ツツガムシ病同様リケッチアが病原菌となります。日本紅斑熱の病原菌は <i>Rickettsia japonica</i> という名称です。日本では 1984 年になって初めて発見されました。発症過程としてはライム病同様、病原菌を保有するマダニによるもので、症状としてはツツガムシ病とよく似ています。ツツガムシ病と比較すると刺し口が小さい傾向にあり、発見が遅れる可能性があります。

# レジオネラ症について

先月、千葉県船橋市の日帰り入浴施設を利用した男性がレジオネラ症で死亡し、同施設の浴槽から検出されたレジオネラ菌と、男性が感染した菌の遺伝子型が一致したと発表されました。

そこで今回、レジオネラ症の関連法令や予防対策等についてご紹介させていただきます。

## レジオネラ症とは？

レジオネラ属菌という細菌が原因で起こる感染症です。レジオネラ症の症状には2つのタイプがあり、それぞれ、「レジオネラ肺炎」と「ポンティアック熱」と呼ばれています。ポンティアック熱は発熱や頭痛、筋肉痛などの症状で、一般的に軽症です。一方で、レジオネラ肺炎は高熱や呼吸困難、吐き気、意識障害などが出て、重症になり死亡することもあります。通常、健康な人は感染しにくいといわれていますが、幼児や高齢者、他の病気にかかっているなど抵抗力の弱い人は感染しやすいので注意が必要です。

## レジオネラ症防止に関連した法令

### ① 建築物等におけるレジオネラ症防止対策について

空調設備の冷却塔や冷却水、給水設備、給湯設備、加湿装置、装飾用噴水等についてレジオネラ属菌の増殖を抑えるために消毒や清掃などの措置を実施する必要があります。また、「新版レジオネラ症防止指針」では感染危険因子の点数化に応じたレジオネラ検査等の管理方法や検査の結果レジオネラ属菌が検出された場合の対応が記されています。

### ② 社会福祉施設におけるレジオネラ症防止対策について

社会福祉施設でも「建築物等におけるレジオネラ症防止対策について」に基づく管理方法や定期的なレジオネラ検査等が示されています。

### ③ 公衆浴場における衛生等管理要領

公衆浴場でのレジオネラ検査や消毒などの管理法が記されています。

### ④ 循環式浴槽におけるレジオネラ症防止対策について

公衆浴場業、旅館業等における循環式浴槽での管理法や検査について記されています。浴槽水等の水質検査は、循環式浴槽の形態に応じて定期的に行うこととされています。またこの検査に関する書類は、3年以上保存しなければなりません。

### ⑤ 遊泳用プールの衛生基準について

遊泳用プールの付帯設備として循環式浴槽と同様の設備が設けられている場合にも、定期的なレジオネラ検査などを含めた管理方法が示されています。

## レジオネラ属菌の予防対策とは？

レジオネラ属菌は自然界に広く分布する微生物です。自然界では、レジオネラ属菌だけが多量に増えるということはないのですが、人工的な環境(循環式浴槽や建物に設置されている冷却塔、加湿器、貯湯槽)が衛生的な管理をされていない時などに、こういった設備の中でレジオネラ属菌は繁殖します。これが、レジオネラ症の原因につながっていきます。

レジオネラ属菌が発生しないように設備を維持するには、定期的な清掃が有効です。また、レジオネラ属菌は 50℃程度まで増殖することができるため、貯湯槽内の温度は 55℃以上に保つことも有効です。設備を清潔に維持する為の目安として、細菌検査(一般生菌数やレジオネラ属菌)をこまめに行い、設備の汚染状況を把握しておくことが望ましいといえます。

レジオネラ属菌による汚染が確認された場合には、早急に対策を行うことが重要です。ご参考までに、以下に対策の一例を紹介します。水が滞留する場所で高い割合で検出されますので、レジオネラ属菌が検出された場合の対策としては、給湯水の循環状況を確認し、滞留をなくすことが有効です。また、貯湯槽内にバイオフィルムが形成されている場合は、こまめな清掃や、高濃度塩素による消毒、約 70℃で 20 分間の加熱処理を行うことによって、槽内を清潔に保つことができます。

### レジオネラ症の発生を防ぐ 3 つのポイント

#### つけない・増やさない・吸い込ませない

レジオネラ属菌は、衛生管理を徹底することで増殖を抑えることができます。そのためにも、日頃の衛生管理と定期的な水質検査を実施しましょう。



レジオネラ属菌の水質検査を承っております。  
ご要望の方は弊社までお問い合わせ下さい。

### 先月の食中毒情報

以前としてノロウイルスによる食中毒が多く発生しています。引き続き警戒を続けてください。

今月は、ウエルシュ菌を原因とした食中毒が発生していました。ウエルシュ菌は、耐熱性の芽胞を形成するため、加熱食品でも調理後の取り扱いが不十分だと食中毒を引き起こしてしまいます。今回の事例では、同じ病院で作られた食事でも、入院患者は発症せず、職員 48 人のみが発症していました。つまり、職員が喫食するまでの保管方法に問題があったものと考えられます。調理後、食品を一時的に保管する場合は、食中毒の原因菌を抑制できる状態を維持するように、いま一度意識を向けてみてください。

#### 全国食中毒発生状況 (2/15～3/14 新聞発表分)

原因物質	事例	感染者数
ノロウイルス	21	778
サポウイルス	5	132
ウエルシュ菌	1	48
カンピロバクター	1	5
不明・その他	5	26

### 株式会社コントロールラボ

本社 〒651-1211 神戸市北区小倉台7-1-7

TEL:078-582-3575 FAX:078-582-3576

阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町2-4-15

TEL:078-858-6801 FAX:078-858-6802

福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-6-15-A棟3

TEL:092-575-0630 FAX:092-586-6321

フリーダイヤル

☎0120-540-643

URL <http://controllabo.co.jp>



株式会社コントロールラボ



エムテック衛生検査所